

CSだより はいちゅう

令和6年2月発行

第3回学校運営協議会が開かれる

2月2日（金）に本年度最後の学校運営協議会が開かれました。出席した委員8名（欠席1名）と学校側職員は教頭、教務主任。統括室長の3名が参加して熟議が交わされました。令和5年度の学校評価アンケート結果から成果と課題の検証や解決策を求めたり、学校側・教育委員会への要望等の意見集約が行われました。

会の途中に、生徒会運営委員の皆さんが手作りした「感謝のメッセージ」を、委員各位に贈呈するセレモニーが行われました。生徒の心配りに一同感激をし、何度も読み返していました。

会の内容（次第）

- 1 開会のことば
- 2 会長あいさつ
- 3 校長あいさつ及び学校経営報告
- 4 協 議

- (1) 令和5年度 学校評価
 - ・学校評価概要説明
 - ・グループ別協議
 - (2) 令和6年度 学校経営（案）
 - (3) 学校・教育委員会への要望等
- 5 その他
 - (1) コミュニティ・スクール活動報告
 - (2) 次年度の学校運営協議会について
 - ・委員選任
 - ・令和6年度の日程
- 6 閉会のことば



神谷会長あいさつ



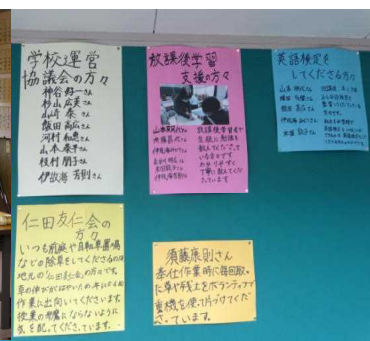
Bグループ協議の様子



運営委員のみなさん



メッセージの贈呈



2F西通路に「感謝の言葉」を掲示

グループ協議 意見内容 (アンケート内容と委員の意見)

<p>・学校に安心して通えていますか？ ・テスト計画を実行できましたか？</p>
<p>・生徒が安心して学校へ通えている。保護者の信頼度の高まりも結果に出ている。 ・学年が上がるにつれ安心感が高まっている。中心となっている充実感があるのでは。 ・仕事柄、地域にいと1年生がたくさん遊びに来るが、2, 3年になると遊びに来なくなる。やはり、学校生活に慣れ充実してくるのでは。 ・学習計画は立派だが、計画に追いついて行かないところがある。計画をつくることも良いが、「授業内容がわかっているか」が気になる。 ・小学校は担任が丁寧にみってくれるが、中学校は教科担任制なので難しい面もある。 ・家に帰って今日は「何をやった!」「何を学んだ!」と言えるような授業であってほしい。最低でも参加している満足感がほしい。 ・夏休みの補充学習を公民館等を開放して学習会が開けないか。 ・地元の先生OBが協力してくれるなら可能かもしれない。 ・放課後学習で自ら手をあげ30人が参加していることは凄いこと。</p>
<p>・コミュニティ・スクールを知っているか？ ・学校運営協議会の活動を知っているか？</p>
<p>・保護者の認識が向上していないのが気になる。地域がどうしているかが伝わりきれていない。保護者の意識向上は急務と考える。 ・子どもとの距離感が小学校とは異なる。中学校では親は距離を置いて見るスタンス。それが、コミュニティの認知度が上がらないことにもつながっているのでは。 ・「誰かがやってくれる」という認識ではいけない。実績を伝える。広報活動でペーパーレスは大事だが「たより」を回覧したり配布したりすることも必要。 ・学校再編に向け、小学校とのつながりを作っていく。今から動き出しをしていく。 ・地域の子もたちのことを真剣に考えれば、今のうちから課題や問題点を小・中で話し合っていく必要があるのでは。 ・英語検定など、地域や保護者にお手伝いができるボランティアを募集してみてもどうか、授業サポート・のこぎり・調理実習なども考えられる。</p>

「起郷家教育」・1年職業講話が行われる 2/1・2/8・2/13・2/14

講話のテーマ	講師
1. 医師の仕事について	島田市立医療センター小児科医師 植田太輔氏
2. CAの仕事について	フジドリームエアラインズ CA 團野晴美氏
3. スポーツと仕事について	元河合楽器野球部・県野球技術指導員 大石丈二氏
4. 菓子職人の仕事について	ふるさと創業処 扇松堂菓子店 店主 鈴木一弘氏



名古屋空港から CA 團野晴美氏 榛原中応接室から 大石丈二氏 扇松堂菓子店 店主 鈴木一弘氏